

年頭所感 ～「とっとり森と緑の産業ビジョン」の実現に向けて～

鳥取県農林水産部森林・林業振興局長 垣田 修

新年あけましておめでとうございます。

「日南の森林（もり）だより」をお読みの皆様におかれましては、日頃より、本県の森林・林業・木材産業活性化へのご支援・ご協力を頂きありがとうございます。

昨年は、「とっとりグリーンウェイブ」の更なる展開を図るべく、様々な取組を行った一年でした。中でも、11月に日南町総合文化センターを会場として開催した「とっとり里山資本主義フォーラム」では、タレントの高木美保さんによる講演会や岡山・鳥取両県知事によるトークセッションなど、本県の豊かな森林資源を背景とした里山の素晴らしさを改めて認識する集いとなりました。

さて、県土の74%を占める森林につきましても、戦後植栽された人工林資源が充実しつつあり、毎年約70万m³程度の蓄積が増加しています。本県の木材生産量が約20万m³/年であることを考えると、森林にはまだまだ活用可能な資源が眠っていると言えます。

これらの豊富な資源を背景として、施業集約化・路網整備・機械化を軸とした低コスト林業の実現に向けた施策を展開してきた結果、県内の木材生産量はここ5年間で倍増し、日南町においても木材生産の取組が活発化していることは御承知のとおりです。

一方、出口（木材需要）がないことには山は動きません。近年の木材生産量の増加の背景として、LVL、合板用の需要が増加してきたことが上げられます。今年は、県内外において木質バイオマス発電の本格稼働を迎え、全国的にはCLTの実用化に向けた取組が活発となるなど、木材需要がどう動いていくか、市場動向を睨んだ動きがより一層重要となってくると考えます。

そのような中、今後、山側では、いかに木材の安定的かつ計画的な供給体制を構築するかということが求められてくると考えています。「森林経営計画制度」が平成24年度から開始され、計画的な森林経営の取組がより一層重要となってまいりました。県内屈指の計画策定率を誇る日南町においては、その着実な実行について、是非とも、がんばっていただきたいと思います。また、それらを支える担い手の確保・育成も重要です。近年、林業に従事する若者が増加しつつあり、県としても、若者が行う研修活動等への支援や緑の雇用支援の継続などにより、引き続き担い手の確保・育成を図っていきたいと考えています。

「里山資本主義」に象徴されるように、自然と共生する暮らしに注目が集まっています。資源が充実しつつある今こそ、林業・木材産業の活性化と持続可能な森林経営を確立するチャンスです。県では、昨年5月に、本県の林業・木材産業の成長産業化に向けて「とっとり森と緑の産業ビジョン」を策定し、平成32年度に素材生産量38万m³を目指すなどの目標を掲げています。皆様とともに、知恵を出しあいながら、その達成に向けて取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き、県施策の推進にご理解・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。